



## 平成28年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成28年11月4日

上場会社名 オンコロスバイオフーマ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4588 URL http://www.oncolys.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浦田 泰生  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営管理担当 (氏名) 六反田 靖 TEL 03 (5472) 1578  
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月4日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年12月期第3四半期の業績（平成28年1月1日～平成28年9月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第3四半期	46	133.5	△679	—	△682	—	△731	—
27年12月期第3四半期	19	179.7	△698	—	△599	—	△601	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年12月期第3四半期	△79.53	—
27年12月期第3四半期	△65.46	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年12月期第3四半期	3,231	2,746	84.8	297.64
27年12月期	4,005	3,501	87.2	381.27

(参考) 自己資本 28年12月期第3四半期 2,786百万円 27年12月期 3,493百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年12月期	—	0.00	—		
28年12月期（予想）				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成28年12月期の業績予想（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	188	55.5	△897	—	△900	—	△949	—	△102.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

業績予想の修正については、本日（平成28年11月4日）公表いたしました「営業外収益、営業外損失及び特別損失の計上並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年12月期3Q	9,227,200株	27年12月期	9,183,800株
② 期末自己株式数	28年12月期3Q	－株	27年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年12月期3Q	9,198,170株	27年12月期3Q	9,183,578株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7
4. 補足情報 .....	8
(1) 研究開発活動 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(平成28年1月1日～平成28年9月30日)におけるわが国経済は、政府による経済政策および日銀による金融政策に停滞感が見られましたが、企業収益や雇用情勢に緩やかな改善の動きが見られ、緩やかな景気回復基調がみられました。一方で、英国のEU離脱による欧州経済・金融不安の高まりや中国をはじめとする海外景気の下振れ懸念により、先行きの不透明な状況が予想されています。

このような状況下、当社は経営の効率化を図り、積極的な研究・開発・ライセンス活動を展開いたしました。

医薬品事業では、腫瘍殺傷ウイルスのOBP-301(テロメライン®)及び新規エピジェネティックがん治療薬OBP-801、新規抗HIV剤OBP-601(センサブジン)を中心に研究・開発・ライセンス活動を推進させました。また、検査事業では、がん検査薬テロメスキャン®の研究・開発・受託検査・ウイルス販売・ライセンス活動を推進させました。

当社活動の詳細に関しては、「4. 補足情報 (1) 研究開発活動」をご確認ください。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高46,540千円(前年同四半期は19,935千円)、営業損失679,556千円(前年同四半期は営業損失698,772千円)となりました。また、営業外収益として、受取利息3,999千円及び金銭の信託運用益7,557千円等を、営業外費用として支払利息2,487千円及び為替差損13,281千円を計上した結果、経常損失は682,662千円(前年同四半期は経常損失599,164千円)となりました。四半期純損失は、神戸検査センターの固定資産の減損損失47,353千円等により731,550千円(前年同四半期は四半期純損失601,124千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① 医薬品事業

医薬品事業におきましては、積極的な研究・開発・ライセンス活動を展開し、江蘇恒瑞医薬股份有限公司(本社:中国 英語名: Jiangsu Hengrui Medicine Co., Ltd. 以下「Hengrui(ハンルイ)社」との間で、OBP-301(テロメライン®)の中国におけるライセンスの基本合意を締結すると共に、LBR Regulatory and Clinical Consulting Services, Inc.(本社:米国 以下「LBR社」との間で、HIV感染症治療薬OBP-601(センサブジン)開発に関するオプション契約を締結いたしました。当第3四半期累計期間において計上すべき売上はありませんでした。

この結果、売上高なし(前年同四半期は売上高なし)、営業損失289,099千円(前年同四半期は営業損失286,813千円)となりました。

#### ② 検査事業

検査事業におきましては、血中浮遊癌細胞(CTC)検査薬として開発を進めていますテロメスキャン®を用いた研究用CTC受託検査収入、WONIK CUBE Corp.(本社:韓国)との韓国エリアにおけるライセンス契約に基づくマイルストーン収入および新たに製造権の許諾を行ったことによる契約一時金収入、Liquid Biotech USA, Inc.(本社:米国 以下「Liquid Bio社」との北米エリアにおけるライセンス契約に基づくマイルストーン収入、Deciphera Pharmaceuticals, LLC(本社:米国 以下「Deciphera社」)等へテロメスキャン®の販売収入の計上により、売上高46,540千円(前年同四半期は19,935千円)、営業損失84,907千円(前年同四半期は営業損失102,971千円)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末における資産は、現金及び預金の減少及び固定資産の増加等により3,231,018千円(前事業年度末比19.3%減)となりました。負債は、短期借入金の減少等により484,644千円(前事業年度末比3.9%減)となりました。純資産は、四半期純損失等の理由により2,746,373千円(前事業年度末比21.6%減)となりました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、本日(平成28年11月4日)公表いたしました「営業外収益、営業外損失及び特別損失の計上並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,605,286	2,398,940
売掛金	1,123	874
金銭の信託	—	407,557
製品	14,185	13,412
貯蔵品	1,526	1,721
前払金	9,293	8,686
前払費用	17,751	23,139
未収入金	241	2,223
未収消費税等	22,621	17,404
その他	1,673	53
流動資産合計	3,673,702	2,874,013
固定資産		
有形固定資産		
建物	13,355	6,953
減価償却累計額	△1,730	△2,671
建物(純額)	11,625	4,282
工具、器具及び備品	103,412	69,998
減価償却累計額	△68,877	△65,578
工具、器具及び備品(純額)	34,535	4,419
有形固定資産合計	46,160	8,702
無形固定資産		
ソフトウェア	4,132	1,134
無形固定資産合計	4,132	1,134
投資その他の資産		
投資有価証券	248,082	304,995
関係会社株式	—	10,173
出資金	100	100
敷金及び保証金	31,821	30,208
長期前払費用	1,940	1,671
その他	19	19
投資その他の資産合計	281,963	347,168
固定資産合計	332,257	357,004
資産合計	4,005,959	3,231,018

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	93,320	68,742
リース債務	10,475	10,110
未払金	43,944	54,440
未払費用	14,469	9,974
未払法人税等	10,483	15,180
前受金	86	691
預り金	4,188	4,516
流動負債合計	176,966	163,654
固定負債		
長期借入金	303,202	300,000
リース債務	21,758	17,773
退職給付引当金	2,562	3,216
固定負債合計	327,522	320,989
負債合計	504,489	484,644
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,072,338	5,088,590
資本剰余金		
資本準備金	5,064,838	5,081,090
資本剰余金合計	5,064,838	5,081,090
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△6,637,915	△7,369,465
利益剰余金合計	△6,637,915	△7,369,465
株主資本合計	3,499,260	2,800,214
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△5,370	△61,076
評価・換算差額等合計	△5,370	△61,076
新株予約権	7,580	7,236
純資産合計	3,501,470	2,746,373
負債純資産合計	4,005,959	3,231,018

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
売上高	19,935	46,540
売上原価	16	8
売上総利益	19,918	46,532
販売費及び一般管理費	718,691	726,089
営業損失(△)	△698,772	△679,556
営業外収益		
受取利息	3,325	3,999
受取配当金	4	4
助成金収入	89,065	810
受取研究開発負担金	10,190	—
為替差益	212	—
金銭の信託運用益	—	7,557
その他	126	291
営業外収益合計	102,924	12,662
営業外費用		
支払利息	3,316	2,487
為替差損	—	13,281
営業外費用合計	3,316	15,769
経常損失(△)	△599,164	△682,662
特別利益		
固定資産売却益	—	120
特別利益合計	—	120
特別損失		
減損損失	—	47,353
特別損失合計	—	47,353
税引前四半期純損失(△)	△599,164	△729,895
法人税、住民税及び事業税	1,959	1,654
法人税等合計	1,959	1,654
四半期純損失(△)	△601,124	△731,550

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成27年1月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	医薬品事業	検査事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	—	19,935	19,935	—	19,935
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	—	19,935	19,935	—	19,935
セグメント損失(△)	△286,813	△102,971	△389,784	△308,987	△698,772

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る経費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	医薬品事業	検査事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	—	46,540	46,540	—	46,540
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	—	46,540	46,540	—	46,540
セグメント損失(△)	△289,099	△84,907	△374,006	△305,549	△679,556

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る経費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「検査事業」セグメントにおいて、固定資産の帳簿価額を減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては47,353千円であります。

#### 4. 補足情報

##### (1) 研究開発活動

当第3四半期累計期間の研究開発費の総額は241,042千円であります。

当社は、以下のプロジェクトを中心に研究開発を進めました。

##### ①医薬品事業

腫瘍溶解ウイルスのOBP-301(テロメライシン®)につきましては、本年8月30日にアメリカ食品医薬品局(FDA: Food and Drug Administration)に切除不能または転移性悪性黒色腫(メラノーマ)を対象としたPhase II臨床試験の臨床試験実施計画書(プロトコール)を提出しました。本試験は、テロメライシンの腫瘍内投与における有効性、安全性及び腫瘍免疫反応の評価を目的としています。また、本試験結果をもとに、今後、免疫チェックポイント阻害剤との併用試験の実施も検討する予定です。平成20年3月にMedigen Biotechnology Corp.(本社:台湾)と締結いたしました戦略的アライアンス契約に基づく肝臓がんを対象としたPhase I/II臨床試験は、データ安全性モニタリング委員会(DSMB: Data & Safety Monitoring Board)より、肝臓がんを対象とした最高投与量群での忍容性が確認されたとの報告を受領したことを受け、FDAに対してさらに高い投与量群に関するプロトコール修正を申請し承認されました。現在、台湾と韓国にて被験者登録を開始しています。国内においては、平成25年12月から岡山大学による食道がんを対象とした医師主導の臨床研究が進んでいます。同時に食道がんを対象とした放射線療法やチェックポイント阻害剤等のがん免疫療法剤との併用効果を確認するための臨床試験の治験申請準備を行っています。さらに、平成28年5月にHengrui社と中国ライセンスに関する基本合意を締結し、Hengrui社による中国での本剤の研究開発も視野に入っており参りました。

平成21年10月にアステラス製薬株式会社より導入いたしました新規エビジェネティックがん治療薬OBP-801につきましては、Karmanos Cancer Center(米国ミシガン州)において、他の治療法に抵抗性を示す進行性の固形がん患者を対象とするPhase I臨床試験が進行中です。

新規抗HIV剤OBP-601(センサブジン)につきましては、LBR社との間で締結致しましたオプション契約に基づき、LBR社においてFDAとのPhase III臨床試験の実施方針に関する打ち合わせ再開準備が進められています。また、新規徐放剤の開発を武庫川女子大学薬学部と進めています。

その他、テロメライシン次世代候補品・新規B型肝炎治療薬候補品・新規抗癌剤候補品等の新しい医薬品開発シーズのパイプライン化を行うべく、アカデミア等との共同研究に積極的に取り組んでいます。

医薬品事業における主なパイプラインは以下の通りです。

開発コード	商標又は名称	適応疾患	開発地域	開発ステージ
OBP-301	テロメライシン® (腫瘍溶解ウイルス)		米国	Phase I(終了)
		肝臓がん	台湾・韓国	Phase I/II
		食道がん	日本	臨床研究
		メラノーマ	米国他	Phase II
OBP-601	センサブジン(HIV感染症治療薬)	HIV感染症	グローバル	Phase IIb(終了)
OBP-801	エビジェネティックがん治療薬		米国	Phase I

##### ②検査事業

テロメスキャン®を用いた血中循環がん細胞(CTC)検査として、各種がん患者を対象とした臨床研究を進めるとともに、全国のクリニックを対象に自由診療の範囲での受託検査を行っています。さらに、医療機関および製薬企業への検査用ウイルス販売も推進しています。

北米においては、ペンシルベニア大学及び同大学元教授等による研究開発成果の商業化を目的に設立されたLiquid Bio社による北米での承認取得を目指した開発が進捗しています。

韓国においては、WONIK CUBE Corp.(本社:韓国)による韓国での承認取得を目指した開発が進められると共に、韓国国内でのテロメスキャンGMP製造を目指して韓国における製造実施権を追加許諾しています。

さらに、Deciphera社は、開発中の新規分子標的抗がん剤の臨床試験において、副次的な有効性評価項目の一つとしてCTC検査を位置付けており、当社は引き続き同社に対するウイルス販売を行っています。